



平成23年度小泉信三記念講座

講師：中谷比呂樹 氏

WHO(世界保健機関)本部 事務局長補

(エイズ・結核・マラリア・特定熱帯病局担当)

**演題：「地球規模での健康格差のは正に
向けて国際社会の出来ること
—WHOの挑戦と課題—」**

2011年10月26日(水)

16:30～18:00

慶應義塾大学 三田キャンパス
北館ホール 参加自由・事前予約不要

(JR田町駅下車徒歩8分、都営地下鉄三田線、浅草線
三田駅下車徒歩7分)

司会：藤田 真幸(医学部教授)



中谷比呂樹 氏 略歴

1977年 慶應義塾大学医学部卒業

1979年 厚生省入省。保健医療局エイズ・疾病対策課長、保健医療局結核感染症課長、

厚生労働省大臣官房参事官、大臣官房厚生科学課長、国立医薬品食品衛生研究所企画調整官

国立がんセンター運営局長兼厚生労働省がん対策本部事務局長、厚生労働省社会・援護局障害

保健福祉部長などを歴任。この間WHO本部事務局(在ジュネーブ)人材開発部政策解析課長、

広島県福祉保健部長を務める。

2007年 WHO(世界保健機関)本部事務局長補、現在に至る。

併せて、世界エイズ・結核・マラリア基金理事会理事、UNAIDS事業調整理事会理事、前慶應義塾大学

グローバルセキュリティ研究所上席研究員。

※ WHO(世界保健機関)とは「全ての人が可能な最高の健康水準に到達すること。」を目的とする国連の専門機関。

感染症対策、医薬品・食品の安全対策、健康増進対策等の活動を行う。設立は1948年(日本は1951年に加盟)。

加盟国数193カ国。本部はジュネーブ(スイス)で世界6ヶ所に地域事務局を置く。事務局長補は、事務局長、事務局

次長につぐ要職で、2007年に中谷博士が、日本人として初めて就任した。